

音

楽

絵

巻

おんがくえまぎ

踏み越えなければならぬものがある

それを懸命に教えようとした人がいた…

奇縁ある近江八幡に生き、

世界を見つめたある女性の素描

「一柳満喜子伝」 いま、そこにある壁を 講談とリユート&フルートで綴る 一柳満喜子の生涯

教育者として、またヴォーリズの良き理解者であり妻である一柳満喜子女史の生涯を、
創作講談とクラシック音楽で辿る旅に皆様をお連れします。
浮き世を離れ、音楽絵巻がいざなうオリジナルな時空間をお楽しみ下さい。

場所：近江八幡市立資料館 旧伴家住宅2階大広間
日時：平成21年10月12日(月)祝日 14時から15時15分(13時30分より開場)
料金：一般500円、小中学生300円(入館料に含まれる)

Music×Storytelling



先着60名様限定 茶話会

お問い合わせ：近江八幡市立資料館

〒523-0871 滋賀県近江八幡市新町2丁目22

TEL: 0748-32-7048 FAX: 0748-32-7051 (担当: 佐竹、奥村、出口)

演奏後、「有限会社 たねや」が作る満喜子ゆかりのスイートポテトと紅茶を戴きながら、
出演者・作家を囲んだ茶話会を実施します。併せてご参加ください。お茶菓子代300円

音楽絵巻

おんがくえまき

1 旭堂南左衛門 (きょくどう なんざえもん) / 講談師

本名西野安彦。兵庫県三田市出身。近畿大学商経学部卒業後、三代目旭堂南左衛門に入門し南学を貰う。昭和62年に真打昇進。旭堂南左衛門を創名。平成3年3月には第8回咲くやこの花賞(大阪市)を受賞。平成5年1月には国立演芸場花形演芸会金賞を受賞。平成17年上方講談協会会長に就任。最近では新しい講談の世界として「講演：講談の世界に観る戦国武将(信長・秀吉・家康)の人の心の掴み方」を各地で講演し好評を博す。

2000年日本テレマン協会主催の「ヘンデル：オラトリオ本邦初演シリーズ」に内容解説の講談師として出演し、以来作家・中野順哉との二人三脚で「上方講談」の創作活動を積極的に展開中。「ヘンデル一代記」をはじめ多種多様なジャンルにおよぶ講談を世に送り、後世に残したいという熱意を見せている。また二人の活動はバロック音楽とのコラボレーションにより大きく展開。「音楽絵巻」と題されたその企画はひろく受け入れられ、すでに全国45箇所以上で公演。

2 森本英希 (もりもと ひでき) / フルート奏者

京都市立芸術大学音楽学部卒業。大阪シンフォニカー交響楽団フルート奏者を経て、現在テレマン室内管弦楽団のフルート奏者。テレマン室内管弦楽団のソリストとして、モーツァルト、バッハ、ヴィヴァルディ、テレマン等数多くの協奏曲を演奏する。丹波の森国際音楽祭2006(シュペルティアード丹波)のシンボルアーティストを務め好評を博した。2008年リサイタル開催。古楽器奏者としてもコレギウム・ムジクム・テレマンのCD録音(日本コロムビア、ナミレコード)、ライブツイヒバッハフェスティバル2003などを含む多数の演奏に参加している。

滋賀県立石山高等学校音楽科非常勤講師、ムラマツフルートレッスンセンター講師、「京都バロック楽器アンサンブル」代表、野外パフォーマンスユニット「なにわのバスカーズ」、木管五重奏団「ターフェルクインテット」のメンバー、鹿児島大学楽友会交響楽団管楽器トレーナー、京都三大学交響楽団木管トレーナー。

これまでにフルートを安藤史子、伊藤公一、白石孝子の各氏に師事。故J.ベイカー、M.ラリーユ、C.ラルデ、T.ワイ、F.ベルノルド、J.フェランディス各氏のマスタークラスを受講。古典フルート奏法を竹林秀憲、リザ・ベズノシウク、マルク・アンタイの各氏に学ぶ。

3 高本一郎 (たかもと いちろう) / リュート&アーリーギター奏者

5歳よりギターを始め『読売ギターコンクール銀賞』受賞。

相愛大学音楽学部卒業後、フランス国立ストラスブール音楽院にて研鑽を積む。ソロ活動、国内外の著名な音楽家との共演をはじめ、ヨーロッパ、アジア、オセアニア各国でコンサートを開く。「プロヴァンス音楽祭'01」での演奏はフランス全土にTV中継された。

TV、ラジオ、CM音楽制作、演劇、バレエ、能狂言、朗読、落語の舞台、他ジャンルの数多くのCD録音に参加するなど多彩な演奏活動を展開中。昨年3月パリ・ルーヴル美術館にてソロコンサートを開催。「日本テレマン協会」ソリスト&コンティヌオ奏者、「ダンスリー」メンバー。大阪音楽大学付属音楽院講師。2001年1stソロCD『天使のアリア、風の舞曲』をリリース。リュートを今村泰典、Hopkinson SMITH, Eugene FERRE, バロックギターをRolf LISLEVANDの各氏に師事。

高本一郎公演情報『リュートの時間』<http://ichioluth.exblog.jp/>

4 中野順哉 (なかの じゅんや) / 作家

作家。日本テレマン協会代表代行。小説を作家・阿部牧郎、浄瑠璃台本を人間国宝の七世鶴沢寛治、歌舞伎台本を中村翫雀の各氏に師事。関西学院大学文学部フランス文学科卒業。在学中より日本テレマン協会の活動にライターとして参加。93年には同協会の季刊誌「ゲオルク」を立ち上げ、95年には編集長に就任。卒業と同時に作家・阿部牧郎に師事。98年、日本テレマン協会事務局広報部を創設。2000年4月、伴ピーアール社製の琵琶湖浄化の紙(レイクパピルス)を、チラシ、プログラムやゲオルクの表紙に使用。テレマン協会の活動が年間5000トン以上の湖水を浄化するというこの企画は、テレビ、ラジオ、新聞等で大きく取り上げられ話題を呼んだ。同年9月、日本テレマン協会第137回定期演奏会「ヘンデル・オラトリオ本邦初演シリーズ『スザンナ』」において、ナレーション用の講談台本を執筆。これを機会に旭堂南左衛門とともに創作講談を手掛ける。同時に各地の歴史を掘り起こし創作講談と音楽のコラボレーションをプロデュースしながら、文化振興につとめている。講談は処女作「ヘンデル一代記」にはじまり、「講演：国姓爺合戦」「講演：信長の聞いた音楽」「講演：徳川吉宗」「講演：近江商人銘々伝」「講演：利家の聞いた音楽」「講演：宮本武蔵」「講演：佐々兵馬捕物帳外伝～おさん茂兵衛～」講演：源平盛衰記：熊野古道編」「J.S.バッハ一代記」「ヴィヴァルディー一代記」「講演：アマデウス」「講演モーツァルトVSベートーヴェン」「講演：西村伊作」「講演：走れメロス」(原作：シラー「保障」)「怪奇講演：道中奇談」(原作：ゲーテ「魔王」)ほかすでに65作以上にのぼる。作家活動としては2000年10月には「小説・延原武春」を出版。現役の音楽家を題材にしたこの作品は、新聞各紙がとりあげ話題となった。「音楽家の全体像に迫る小説」「ミステリーめいた部分もあって、音楽ファン以外でも楽しめる」と好評。



■アクセス



主催：文化施設活性化事業実行委員会
 助成：文化庁(地域文化芸術振興プラン推進事業)
 協力：有限会社たねや、日本テレマン協会、
 近江八幡市立資料館
 写真提供：財団法人近江兄弟社

～この事業は、「地域文化芸術振興プラン」により実施されています～